

1月30日

厄を「はね」のける 伝統の羽根つき大会



今年で35回目となる富岡地区羽根つき大会が、富岡小体育館で開かれました。七日市・黒川、富岡、東富岡の3地区の青少年育成推進委員会が、伝統ある羽根つきを後世に伝え、羽根つきを通じて子どもの健全育成を図ろうと毎年開いています。31チーム、177人の小学生が参加しました。優勝した団体・個人は次のとおり。(敬称略)

団体の部 3区B 個人の部▷1年=柴山大河(24区)▷2年=小井土哲郎(3区B)▷3年=小嶋教仁(4区A)▷4年=佐藤辰樹(3区A)▷5年=榎本優里香(3区B)▷6年=神戸勇輝(4区C)

2月5日

市老連が作品展と芸能発表会

富岡市老人クラブ連合会は、地域で活動する43の老人クラブ、会員2,470人で構成されています。その活動の成果を披露し、地域を超えて、また世代を超えて交流を図るため、今年も作品展と芸能発表会が、生涯学習センターで開催されました。舞台では、踊りやコーラス、フォークダンスなどが次々に、元気いっぱい演じられました。連合会女性部は「いきいきクラブ体操」を実演。全国の老人クラブで推奨されている体操で、月に2回、あい愛プラザで誰でも参加できる体操会を開いているとのこと。体操は気軽にできる健康づくりですが、みんなが楽しんで楽しむことで、いっそうの効果が期待できると聞きました。



2月5日
~6日

伝統をつむぎ、伝える 目からうるこの手しごと展示



日替わりイベントとして行われた「つくしの会」による合唱

社会教育館で「目からうるこの手しごと展示」が開かれ、同館のさまざまな講座で参加者が作った作品の展示や利用者による発表などのイベントが2日間に渡って行われました。国の登録有形文化財でもある社会教育館では、昔からの伝統的な手しごとの文化を広めようと、特色ある体験講座を設けており、広報とみおかでも毎月参加者を募集しています。



1月23日

ボランティアの温かい心を広めた 第4回ボランティアフェスティバル

生涯学習センターで、第4回富岡市ボランティアフェスティバルが開かれました。市内を中心に、さまざまな分野で社会貢献している28の団体やグループなどが、活動発表を行った。模擬店を出したりして、ボランティアの温かい心を広めました。市民協働講演会では、我孫子市職員で先駆的な活動をしている杉山敦彦さんが「まちづくりは市民の手で」と題して講演。市民協働の在り方や進め方を参加者と考えました。



ユネスコ世界遺産こども伝道師団の演劇「とみおかものがたり」



寝たきり予防の会による健康体操の実演と指導



市民協働講演会

2月3日

豆まきの声高らかに節分祭

春の訪れである立春。古くから豊作を祈る日とされてきました。その立春の前日、各地の寺社で節分祭が行われました。貫前神社では、楼門の東側にある神楽殿で豆まきが行われ、地元の保育園児たちが、手作りの鬼の面をつけ参加。「鬼は〜外」「福は〜内」と、今年の幸福を願いまかれた豆などを、みんなで競い合って拾っていました。子どもたちは色とりどりの手作りケースに、たくさんの幸せを詰めて帰りました。



1月23日

富岡市音楽祭2011

ロックから民謡まで 10代から80代まで

昨年度に続き、2回目となる音楽祭「富岡市音楽祭2011」が、かぶら文化ホールで開かれました。地元で活躍する音楽家、10代から80代までの幅広い世代の出演者が、ロックから民謡まであらゆるジャンルの音楽を、それぞれホールいっぱい響かせました。この日が初ライブという高校生バンドや平均年齢76歳の合唱団も元気に登場。また、スペシャルゲストの作曲家大沢浄二さんを前に「夢日記」も熱唱。グランドフィナーレでは「上を向いて歩こう」を出演者全員で歌いました。



高校生バンド(左)とグランドフィナーレ(右)